

質 疑

1. 令和 6 年薬価調査結果について

○安川文朗部会長（京都女子大学データサイエンス学部教授）

それでは、議論の整理のために、まず資料「薬－１」「薬－２」、このデータのほうですね。「薬－１」「薬－２」についてのご意見、ご質問等、ございましたら、お願いいたします。じゃ、長島委員、お願いいたします。

○長島公之委員（日本医師会常任理事）

今回、このような平均乖離率が出たということで、これを踏まえて、現状に即した合理的な判断をしていく必要があるというふうに考えております。以上です。

○安川文朗部会長（京都女子大学データサイエンス学部教授）

ありがとうございました。では林委員、お願いいたします。

○林正純委員（日本歯科医師会常務理事）

はい、ありがとうございます。本日示されました薬価調査の速報値についてでございますが、数値の精査はこれからいたしますが、

注 射 薬	乖離率 (%)
その他の腫瘍用薬	3. 0 %
他に分類されない代謝性医薬品	5. 1 %
血液製剤類	1. 3 %
その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）	5. 3 %
その他の生物学的製剤	2. 1 %
外 用 薬	
眼科用剤	8. 2 %
鎮痛、鎮痒、収斂、消炎剤	7. 8 %
その他呼吸器官用薬	6. 7 %
歯科用薬剤	
歯科用局所麻酔剤	- 12. 5 %

歯科用薬剤のうち、特に歯科用局所麻酔剤につきましては、平成 27 年から依然マイナス乖離、いわゆる逆ザヤ状態が続いておりまして、過去、2 桁を超えた令和 4 年にも発言させていただき、厚労省におかれましては、さまざまな対応を取っていただいているところと認識しております。

ただ、やはり、今回もマイナスということで、過去最大のマイナス 12.5% ということでございますので、歯科特有の薬価差偏在問題として、是正に向け、引き続き対応を検討していただく、要望いたします。よろしくお願いいたします。

○安川文朗部会長（京都女子大学データサイエンス学部教授）

はい。では森委員、お願いいたします。

○森昌平委員（日本薬剤師会副会長）

はい。ありがとうございます。長島委員からもありましたけど、本日公表された薬価調査の結果を踏まえて検討していく必要があるというふうに考えます。以上です。

○安川文朗部会長（京都女子大学データサイエンス学部教授）

はい。ほかにいかがでしょうか。では松本委員、お願いいたします。

○松本真人委員（健康保険組合連合会理事）

はい、ありがとうございます。（咳）すいません。薬価調査の速報値についてコメントいたします。

項目	H30 (中間年)	R1	R2 (中間年)	R3	R4 (中間年)	R5	R6 速報値 (中間年)
平均乖離率	<u>7.2%</u>	<u>8.0%</u>	<u>8.0%</u>	<u>7.6%</u>	<u>7.0%</u>	<u>6.0%</u>	<u>5.2%</u>
回収率 () 内は調査客体数	85.0% (6,153客 体)	87.1% (6,474客 体)	86.8% (4,259客 体)	86.1% (6,476客 体)	87.6% (4,451客 体)	87.1% (6,584客 体)	86.8% (4,356客 体)
妥結率※ (薬価ベース)	91.7%	99.6%	95.0%	94.1%	94.1%	94.1%	94.3%

※1 妥結率は、価格妥結状況調査の結果による。

平均乖離率が着々と縮小し、今回、全体平均が 5.2%ということで、これはメーカーや卸のコスト上昇を踏まえまして、医療現場がより医薬品の価値を評価した結果だというふうに受け止めております。

ただし、まだまだ値引き販売が行われていることも事実であり、投与形態別、薬効群別で見ますと、依然として、かなり乖離率の大きいものがあるというのが率直な印象でございます。

乖離率の推移（投与形態別）							
区分	H30 (中間年)	R1	R2 (中間年)	R3	R4 (中間年)	R5	R6 (中間年)
内用薬	8.2%	9.2%	9.2%	8.8%	8.2%	7.0%	6.4%
注射薬	5.2%	6.0%	5.9%	5.6%	5.0%	4.4%	3.5%
外用薬	6.6%	7.7%	7.9%	7.9%	8.0%	7.2%	6.8%
歯科用薬剤	- 5.7%	- 4.6%	- 0.3%	- 2.4%	-4.3%	-5.6%	-9.3%

乖離率の推移（主要薬効群別）							
【内用薬】	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6 速報
その他の腫瘍用薬	5.1%	5.1%	5.1%	4.6%	4.2%	3.7%	3.4%
糖尿病用剤	8.6%	9.9%	9.5%	9.0%	8.4%	7.9%	6.9%
他に分類されない化学療法薬	8.0%	9.0%	9.1%	8.2%	7.2%	6.3%	5.1%
血圧降下剤	11.7%	13.4%	12.1%	11.9%	11.3%	12.3%	11.7%
消化性潰瘍用剤	10.8%	12.3%	11.7%	11.2%	11.3%	10.6%	9.2%
精神神経用剤	8.1%	10.0%	9.7%	10.1%	9.4%	9.3%	8.4%
その他の中枢神経系用薬	7.9%	8.6%	10.4%	11.4%	9.0%	7.5%	6.4%
血液凝固阻止剤	5.1%	5.6%	5.3%	5.3%	5.3%	5.0%	4.6%
高脂血症用剤	12.2%	13.9%	13.8%	12.5%	12.7%	11.9%	10.9%
その他のアレルギー用薬	11.8%	13.6%	13.6%	12.2%	11.6%	10.3%	9.0%
【注射薬】	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6 速報
その他の腫瘍用薬	4.3%	5.0%	5.3%	5.0%	4.7%	4.3%	3.0%
他に分類されない化学療法薬	6.0%	6.3%	6.7%	6.6%	6.3%	5.7%	5.1%
血液製剤類	2.3%	3.3%	3.0%	2.5%	2.2%	1.9%	1.3%
その他のホルモン剤（ホルモンの製剤を除く）	6.5%	7.8%	7.9%	7.5%	7.2%	6.5%	5.3%
その他の生物学的製剤	3.8%	3.8%	3.3%	3.3%	2.7%	2.5%	2.1%
【外用薬】	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6 速報
眼科用剤	6.8%	8.0%	8.4%	8.5%	8.7%	8.3%	8.2%
経痛、経痒、収斂、消炎剤	7.6%	8.9%	8.6%	8.7%	9.1%	7.9%	7.8%
その他呼吸器官用剤	6.0%	6.8%	7.6%	7.2%	7.2%	6.9%	6.7%

2. 後発医薬品のシェア

・数量シェア： 約 85.0%

・金額シェア： 約 62.1%

注1) 後発医薬品の数量シェアは右の式で算出

$$\frac{\text{（後発医薬品の数量）}}{\text{（後発医薬品のある先発医薬品の数量）} + \text{（後発医薬品の数量）}}$$

注2) 後発医薬品のコストシェアは右の式で算出

$$\frac{\text{（後発医薬品の薬価×販売数量）}}{\text{（後発医薬品のある先発医薬品の薬価×販売数量）} + \text{（後発医薬品の薬価×販売数量）}}$$

注3) 過去2回分の実績

	今回（令和6年度）※	前回（令和5年度）	前々回（令和4年度）※
後発医薬品数量シェア	85.0%	80.2%	79.0%
後発医薬品金額シェア	62.1%	56.7%	52.2%

※ 販売サイドは2/3の抽出率（営業所ベース）で実施

2

また、お示しいただきました後発医薬品のシェアについては、数量、金額ともに着実に拡大し、特に金額シェアについては新たな政府目標の65%大きく近づく62.1%という結果となっております。

これが不採算品再算定を充実した影響だとすれば、金額目標を設定した意図とは若干異なることも考えられますけれども、後発品がさらに浸透しているという実態がうかがえるというふうに感じております。私からは以上でございます。

○安川文朗部会長（京都女子大学データサイエンス学部教授）

はい、ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問等、ございますでしょうか、データに。じゃ、鳥潟委員、お願いいたします。

○鳥潟美夏子委員（全国健康保険協会理事）

はい、ありがとうございます。薬価調査の速報値が示されたことに関しましては、平均乖離率等の数値は前回よりやや低い水準となっておりますが、極端な数値であるというふうには考えておりません。

通常どおりの薬価改定が可能なことがデータからも示されたのではないかと考えております。

4大臣合意がある以上、国民負担の抑制や国民皆保険の持続可能性の観点から、令和3年度・令和5年度薬価改定の前例を踏まえつつ、平常のルールに基づき、令和7年度薬価改定に向けて議論を進めていくべきというふうに考えております。

(1) 分野別の乖離率

分類		乖離率 (%)
先発医薬品	後発医薬品なし	3.8%
	後発医薬品あり	9.5%
後発医薬品		9.4%
その他の品目		2.6%

今後、新薬、長期収載品、後発品といったカテゴリー別のデータもしっかり見ていきたいというふうに考えております。以上です。

○安川文朗部会長（京都女子大学データサイエンス学部教授）

はい、ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。